インドネシア メナド

メナドとレンベ
マクロに開眼した海

越智
隆治

私を水中写真家として
育ててくれた海

鍵井
靖章

Photo&Text=Takaji Ochi, Yasuaki Kagii

Republic of Indonesia, Manado

Web-lue 2008. Spring

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link <click> 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

越智
隆治

メナドとレンベ
マクロに開眼した海

Takaji Ochi

メナドの海を訪れたのは、7年前。

それまで、水中カメラマンでありながら、

あまりマクロ撮影に興味が無かった。

それは、小さな生物に

関心が無いというのではなくて、

「小さな生物の撮影」に興味が無かったから……、

いや、マクロレンズを使う撮影自体に、

あまり魅力を感じていなかったから

かもしれない。

Photo&Text=Takaji Ochi
Special thanks=World Tour Planners, Odysseadivers
Design=Risa&Panaridesign

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

智越
治隆

ガイドや自分の勘や運を頼りに、大物や群れに遭遇して、潮を読み、瞬時に生物の動きを先読みして位置取りをし、いかにインパクトのある一瞬を写真に切り取るか。そういう博打みたいな撮影は、今でも大好きだ。それは、スポーツや報道の現場で、状況を先読みして瞬時に判断して撮影するのと感覚的にはとてもよく似ている。

比べて、マクロ撮影というものは、どちらかと言えば、スタジオで、ライティングや、撮影角度を考えながら、「ああでもない、こうでもない」と思い悩みながら撮影する商品の物撮り的な感覚になる。元来、短気で飽き性だから、同じ場所にずっと留まっているのも苦手。

フクイポイントで遭遇したのは、ホソカマスの大群（上）
ムカカンプンでは、巨大なウミガメに頻繁に遭遇する（左）
ゴールドスペックジョーフィッシュは、ガイドの指示棒に導かれ、巣穴から飛び出した（下）

驚くような生物と遭遇する
インパクトのある海

メナド

もちろん、小さな世界の中でも様々な瞬間やドラマというものがあるので、反論される人もいるだろうけど、これはあくまで撮影スタイルの問題。

それを克服しようと、雑誌の特集で「マクロリサーチプロジェクト」なる企画を考えて、頻繁にマクロ取材に訪れていた時期もある。おかげで多少は辛抱強くなったと自分では思っている。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

智治
越隆

碧く深く続く海、そこに生きる様々な生命に出会える幸運

01/深海へと続くドロップオフには美しいウミウチワが枝葉を伸ばす
02/見事なハードコーラルの群生も、メナドの魅力の一つ
03/メナド滞在中は、キマ村の中にあるダイビングリゾート、ココティノスで過ごした
04/サンゴの成長が凄いから、下からサンゴをシルエットで撮影するのも面白い

メナド

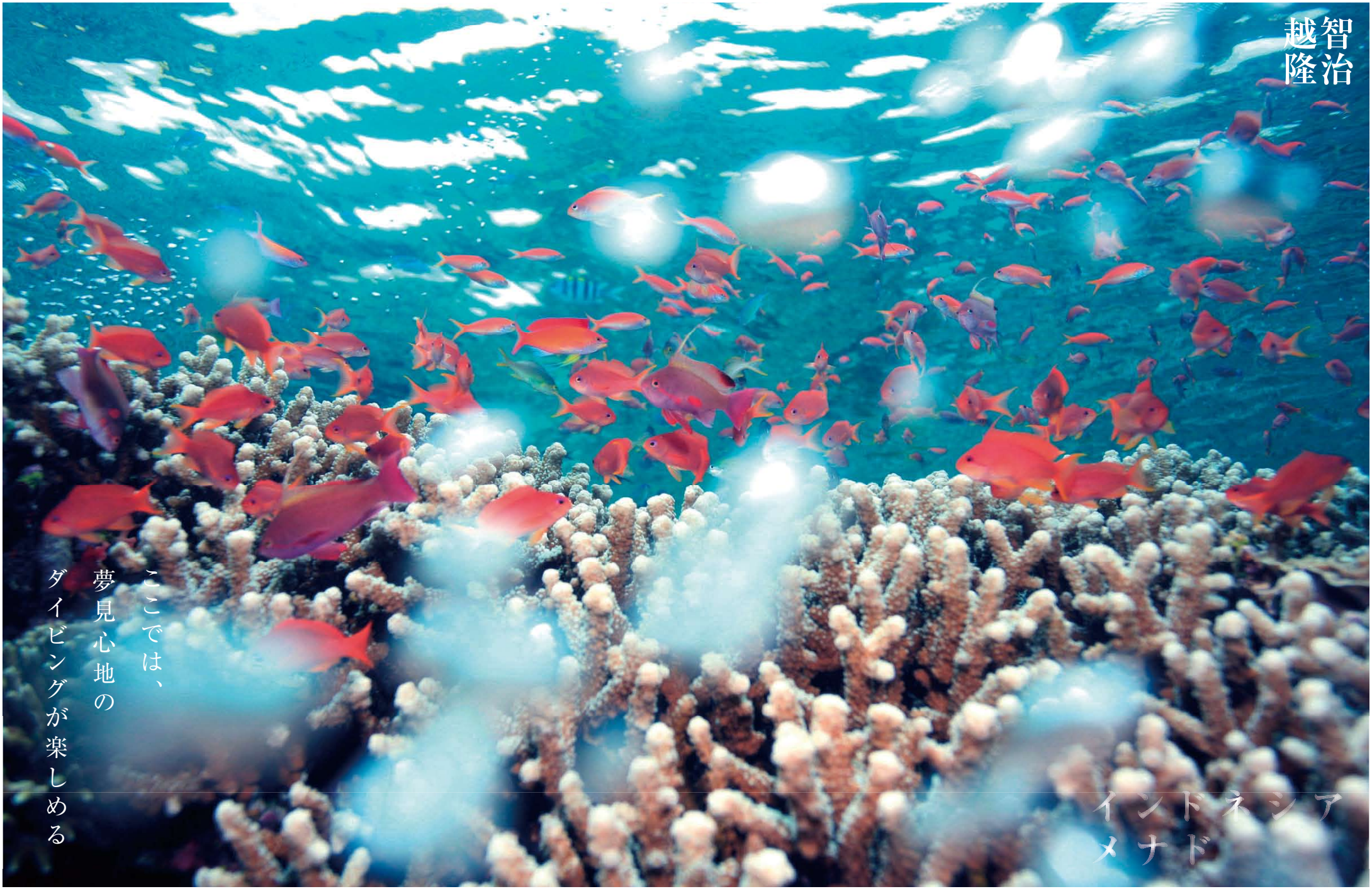
メナドを初めて訪れたときに、まず驚いたのは、メナド人ガイドたちの目の良さとマクロに精通したダイビング知識と経験。それに、数千メートルの深海へと続くドロップオフの壁に潜む、マクロ生物の豊富さ。

特にメナドに来て最初に感動したのは、ヒポカンプスポントヒと呼ばれる、当時は新種のピグミーシーホースと呼ばれていた小さな小さなシーホースをガイドに見せられたことだ。普通のピグミーであれば、特定のウミウチワに生息しているから、その特定のウミウチワさえわかっていれば見つけることができるが、このヒポカンプスポントヒは、そういう場所に生息してはいない。ブナケン島のフクイポイントで、それを現地ガイドが、あっさり見つけて見せてくれたときの感動は今でも忘れられない。

マクロだけでなく、ときに、驚くような生物との遭遇も何度か経験した。同じくブナケン島のムカカンプンというポイントを潜っていたときのこと。このポイントは巨大なアオウミガメが多く生息していることでも、有名だ。彼らはドロップオフにできた窪みで、休息を取っていたりする。このときも、そんなウミガメ狙いで潜っていたのだが、急にガイドの一人が、水面を激しく指差していた。

僕は（またどうせウミガメだろ）うと、最初は思っていた。すでに、何匹も撮影していたから、慌てることはない。そうたかをくくっていたら、そのガイドの横にいた別のガイドが猛スピードで、ドロップオフを駆け上がっていく。（おかしいな）と思い、そのガイドについて浮上して、リーフトップまで来ると、突然リーフの中から、ジュゴンの親子が飛び出してきた。慌ててシャッターを切り、数カットの撮影ののち、ジュゴンの親子はブルーウォーターへと姿を消した。ジュゴンだけでなく、シャチの群れに遭遇したこともあるし、オキゴンドウの群れに遭遇したこともある。マクロから大物まで、様々な出会いが堪能できる海。それが、メナドの魅力だ。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm



ダイバーの吐き出したバブルを入れ込んで、夢着心地な感じを出して撮影したハナダイの群れ

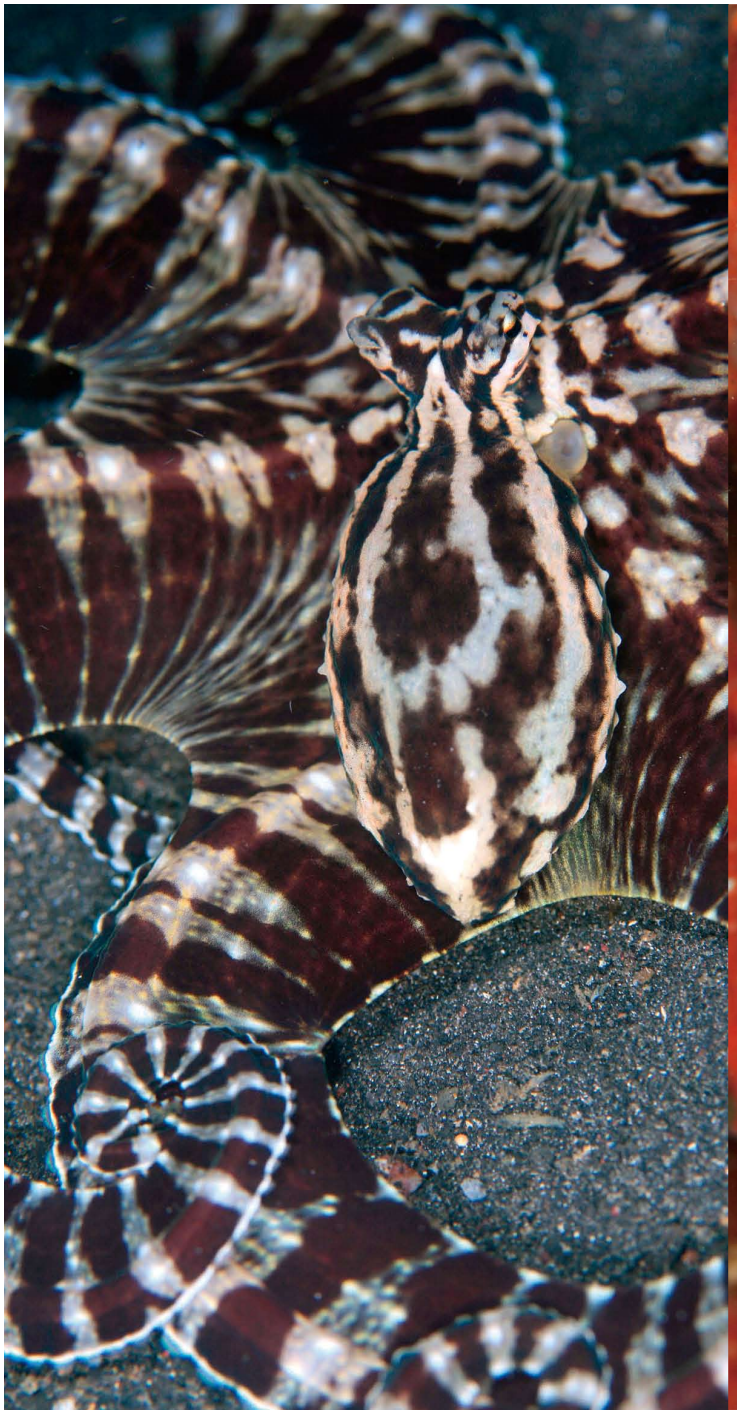
メナドとレンベ　マクロに開眼した海

Republic of Indonesia, Manado

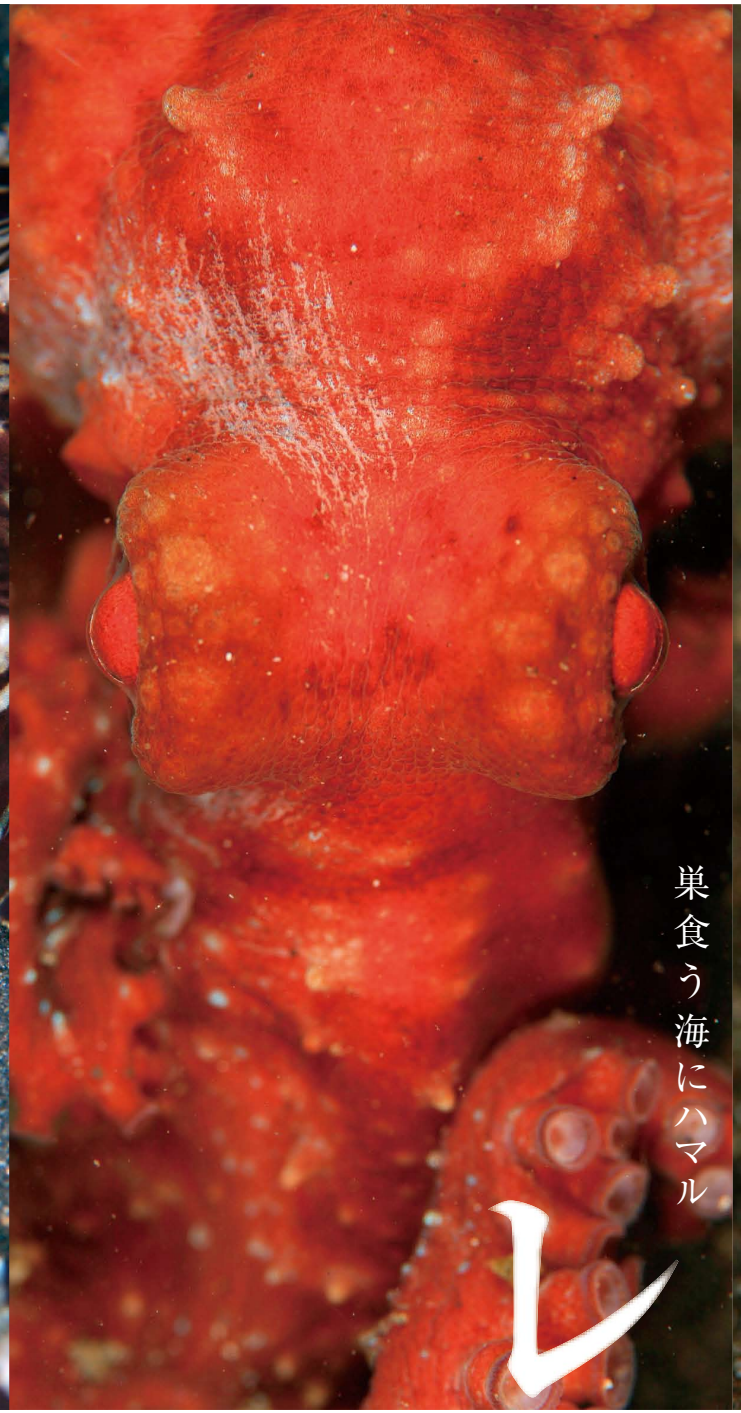
Web-lue 2008. Spring

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link <click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm



ダイバーの憧れ、ミミックオクトパス



奇妙な頭の形の、レッドオクトパス

貝やココナッツを住処にする、ココナッツオクトパス

魑魅魍魎の巣食う海にハマル レンベ

メナドとレンベ　マクロに開眼した海

Republic of Indonesia, Manado

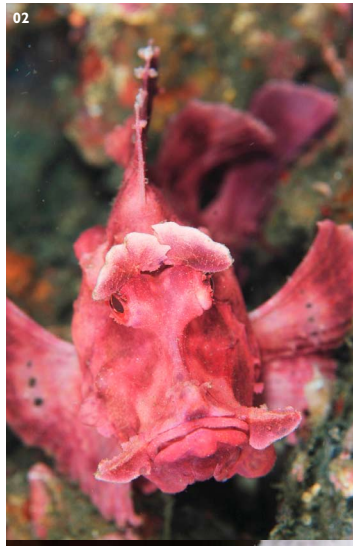
Web-lue 2008. Spring

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

智越
隆治

01/人気のバンガイカーディナルフィッシュは、この海では超普通種
02/ピンク色のレノピアスも、一度見つかるとかなり長い間同じポイントにい続けてくれる
03/ウミウシの種類も豊富だ



レンベ

そして、レンベ。メナドとは、ノーススラウェシ島の反対側（東側）に位置し、レンベ島とに挟まれて狭いレンベ海峡は、超レアものマクロの宝庫として、世界中からも多くのダイバーが訪れる。僕から言わせると、超レアモノというよりは、「魑魅魍魎」って感じ。この海全体が、ちょっと古いけど、風の谷のナウシカの「腐海の森」的な印象だ。

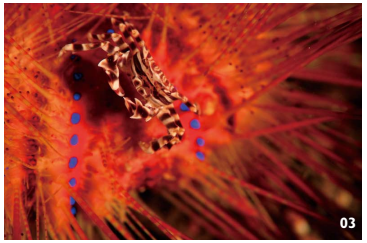
この海は、さらにマクロに対する自分の意識を 180 度転換させてくれるような衝撃を与えてくれた。一番最初に訪れたときは、ぜひとも「超レアものの、バンガイカーディナルフィッシュが見たい」と思っていたのだけど、実際に行ってみると、レンベでは、超普通種なくらい沢山いて、驚いた。今でも、「バンガイカーディナルフィッシュが見たい」というリクエストは多いらしい。そうなると、ガイドも楽なので、すぐには見せず、数ダイブ後に見れるようにダイビングスケジュールを組むそうだ。

腐海の森
超レアな生き物の宝庫

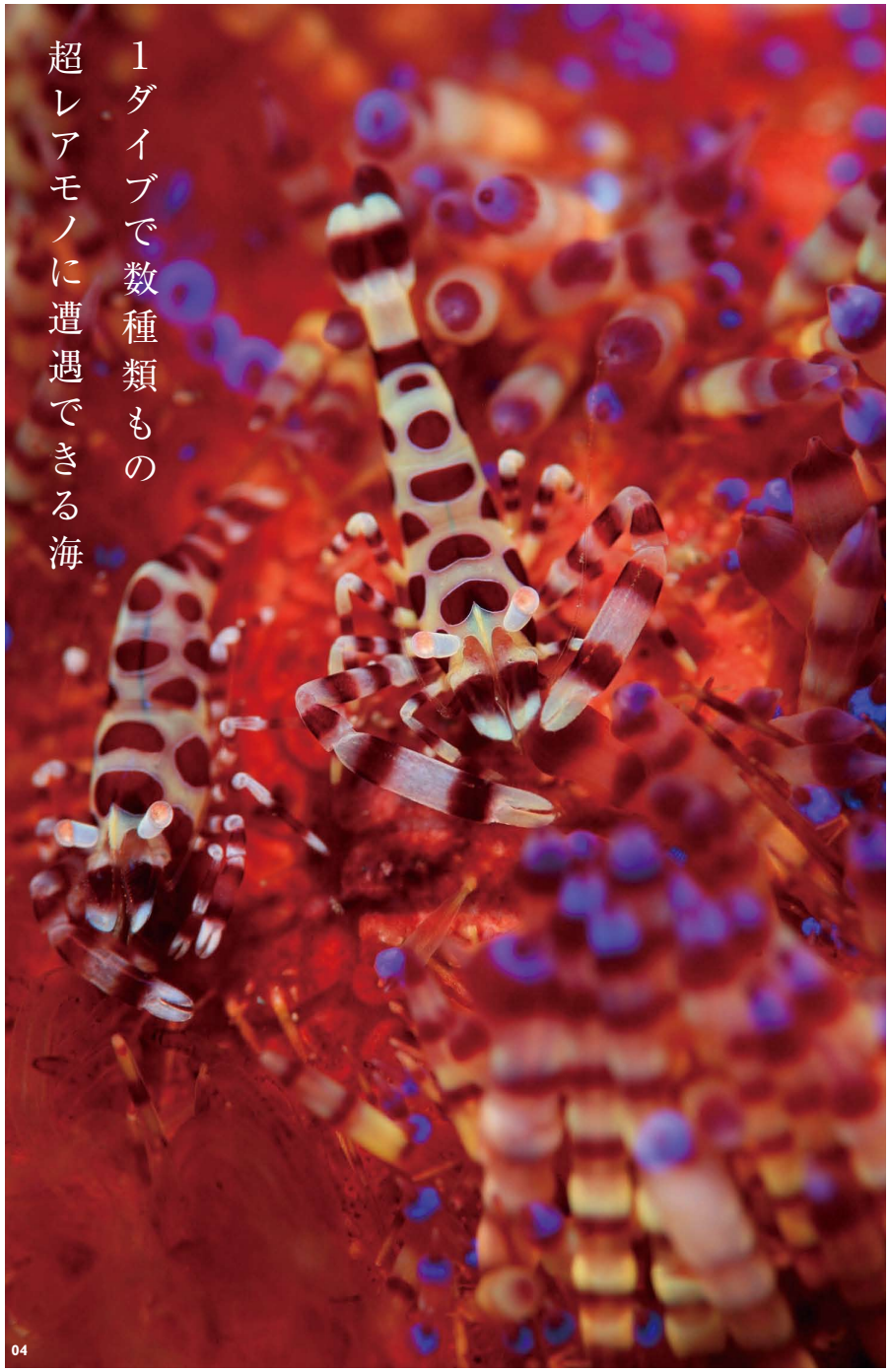
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

越智隆治

01/体中にイソギンチャクを付けた、得たいの知れないカニに遭遇
02/スポンジを背負ったスポンジクラブは、かわいい
03/カラフルなうにの中に生息するのは、ゼブラクラブ
04/普段は深い場所にいて、なかなか見ることのできないコールマンシュリンプにも出会えた



1ダイブで数種類もの超レアモノに遭遇できる海



通常では、超レアモノと言われるような生物たち、カエルアンコウやボロカサゴ、ツノカサゴ、ウミウシの類の種類や個体数の多さ。普通のダイブサイトなら1ダイブである特定の場所に1固体でもいれば、ラッキーな生物たちが、1ダイブで何固体も見れてしまう、ポイントが狭いレンベ海峡に点在している。

滞在したカサワリレンベリゾートの目の前にあるジャヒール2というポイントの水深8m程の砂泥地の緩やかなスロープでガイドが見つけたのは、レンベを訪れる多くのダイバーの憧れ、ミミックオクトパス。

最近では、世界各地で目撃情報が聞かれるが、一番最初にミミックが話題になったのは、このレンベだという。それくらい個体数が多いというわけだろう。おまけに、「ミミック3兄弟」と言われる、ホワイトV、ワンダーパスなどの擬態系のタコも生息していて、その全部を見れる可能性もある。

ある日、ジャヒール2に、いつもと違うガイドと潜った。今までのガイドと違ってあまりやる気が感じられない。「大丈夫かな、こいつ?」と思ったけど、きっと、「日本一やる気の無いカメラマン」と言われる僕を、ガイドの人たちが初めて見た印象もこんな感じなのかもしれないとちょっと思ったりもした。

レンベ

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

越智
隆治

レンベ

感動的な
ミミックオクトパスとの遭遇

あまりにやる気なさそうなので、「見たいのはミミックね」と冗談で言ってみた。すると、鼻で笑うかのように、僕を見ながら、エントリーしていく。（まあ、そう簡単に見れるものじゃないだろうな、やっぱり）と思いながら、続いてエントリー。海底に到着して、いつものように、色々な生物を見せてくれると思ったら、まったく僕のことを無視するかのように、ヤツはスロープ状の海底をあっちへフラフラ、こっちへフラフラ。一向に何も見せてくれない。

しょうがないから、自分で探すことにした。この海のよいところは、ガイドに頼らなくても、それなりにレアなものが見つけられること。このときも、カエルアンコウやイッポンテグリ、ツノハゼSPなど見つけては撮影をしていた。その間もヤツは、あっちへフラフラ、こっちへフラフラ。

そして、もう奴のことを完全に忘れて、自分の撮影に熱中しているころに、急に肩を叩かれた。（何だよ!撮影の邪魔するなよ）とちょっとむっとしてそいつを見ると、「いいから、こっちこいよ」と、やはり、やる気なさそうに、手招きする。

しょうがなくついていくと、奴が指差した先には、な、なんと、見たいと思っていたミミックオクトパスの姿が! そう、奴、いえもとい、あのガイド様はずっとミミックを探しておいでだったのです。

その後は、そのミミックを撮影し続け、エキジットするとそのガイドに「すごいな～、お前!」とがっちりと握手したのは言うまでもない。

そして、他の海では、夜は「ビールを飲んでのんびりしたい」派なので、ナイトダイビングなどあまりしないのだけど、ことレンベに関してだけは、毎日ナイトダイブは欠かさず潜っている。1年中、どこかの海に取材で潜っているけど、ナイトを毎日欠かさずやるのは、本当にレンベだけだ。それだけこの海の「魑魅魍魎」の魅力と数の多さにはまってしまったわけだ。

01/やる気なさげなガイドが見つけてくれたのは、人気モノのミミックオクトパス
02/ナイトダイブでは、これまたレアなツノカサゴを一度に9固体も見つけてくれた
03/レアなサメにも遭遇

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

生命のきらめき

レンベの海を彩る
個性豊かな

レンベ

01/砂に隠れて、餌となる魚に食いつくチャンスを待つエソ　02/身体中に毛の生えたようなカエルアンコウ、ヘアリーフロッグフィッシュの若魚　03/正面顔が滑稽なウミツバメ　04/ナイトダイビングで遭遇した ヒメヤマノカミ

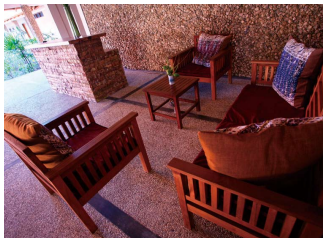
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

インフォメーション

Resort

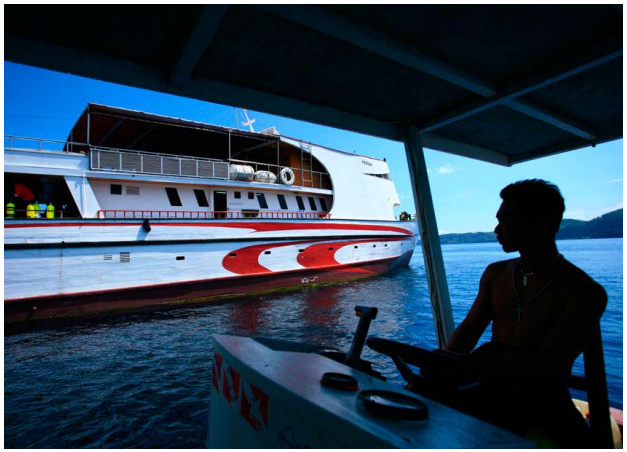
アットホームなニューダイビングリゾート ココティノス

メナドのサム・ラトゥランギ国際空港からわずか25分。ウォーリー湾に面したビーチに誕生した、アットホームなダイビングリゾート。バスタブから海が眺められるウォーターエッジビラ4部屋、スィート2部屋。そして、同姓同部屋希望のゲストにも対応可能のスタンダードルーム3部屋とデュプレックスビラ12部屋。、ビーチに面したオープンテラスのレストランでは、無線LANが使用可能。同じく海に面したプールがある。ダイビングはオデッシーダイバーズが対応。

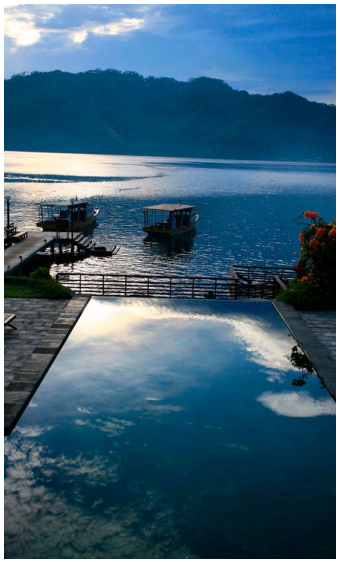


http://www.kima-manado.jp/index.htm

Resort



レンベでのダイビングには、絶好のロケーション カサワリレンベリゾート



滞在した、カサワリレンベリゾートは、2006年8月にオープンしたばかりで、清潔感と高級感に溢れている。レンベ海峡の真ん中、人気のジャヒールというポイントの目の前という好位置にあるこじんまりした、ダイビングリゾート。周囲の人気ポイントまでも、ボートで5~10分で行ける好立地にあり、ダイビングスタイルはクルーズ方式を採用。1ダイブ毎にリゾートに戻り、全食事、軽食つき、1日最大4ダイブの「潜る・食べる・休む」を最大限に追求。レセプション二階のレストランからは、レンベ海峡の美しい風景をのんびりと堪能できる。プールも同様にレンベ海峡を一望。当然のことながら、広いダイビング施設。外にあるシャワーも全て温水が出るので、長く潜った後でも心置きなくシャワーを浴びることができる。フォト派用に、個々のカメラ置きテーブル、プラグ、エアブラシなどが揃ったカメラルームがあるのも嬉しい。

リゾート内にダイビングサービスがあり、日本人ガイドのミキティが常駐。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link clicki 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

名刺サイズ半分ほどのお花畑。
ホヤとサンゴが咲き誇る

インドネシア メナド

私を水中写真家として育ててくれた海

井章 鍵靖
Yasuaki Kagii

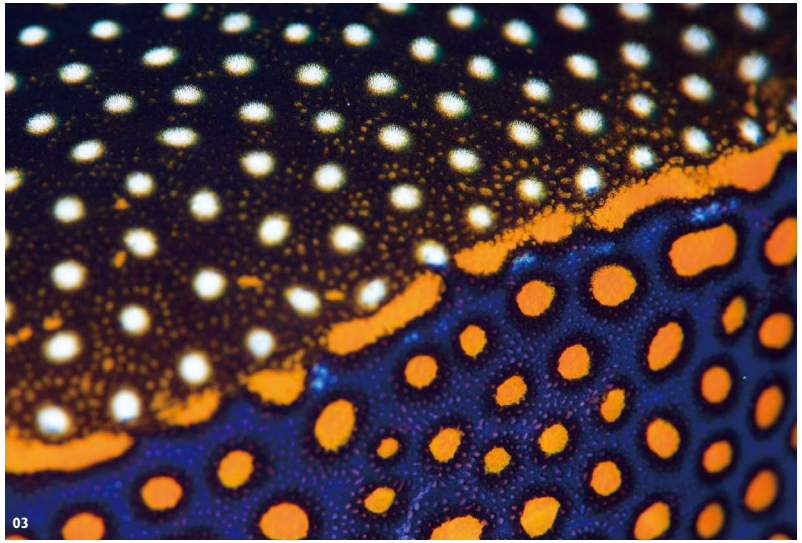
お花屋さんから水中写真家を志した私にとって、
メナドはフィーリングが合う海だった。
「地球上にある全ての色を知りたい」と思い
始まった写真家生活。
お花屋さんのバケツの中で見つけた色を、
メナドの海で簡単に見つけることができた。
私の創作活動のひとつの軸である「色」。
メナドの海に転がっている多姿多様な色は、
私を水中写真家として育ててくれた。

Photo&Text=Yasuaki Kagii
Special thanks=World Tour Planners, Odysseadivers
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link <click> 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

井章
鍵靖

ファインダーの中にすでに用意されているモデルとキャンバス



インドネシア・メナドの海に通い始めてから、もう10年が経つ。最初にきっかけをくれたのは当時、ダイビングインストラクターとして現地で働いて妻のまち子だった。彼女はしきりに「この海はたくさんの生物と色彩に溢れる素晴らしい海。きっと良い作品が撮影できるはず」と助言してくれた。私は2度ほどメナドの海に通った後、彼女の言葉の意味をすぐに理解した。メナドの海は人気魚から可笑しな生き物、奇妙な生き物までフォトジェニックな被写体には事欠かなかった。そして、海底のリーフや岩肌はたくさんのホヤやカイメンなどに覆われてとてもカラフルである。海のなかにお邪魔するだけで、すでに素敵なモデルとキャンバスはちゃんと用意されていた。私はただファインダーの中で絵作りに夢中になっていた。

01/ホヤと食べているウミウシ。よくもこれだけカラフルな取り合わせができたと関心する
02/ホヤやイソギンチャクのブーケ
03/クロハコフグの体表、美しいデザインだ

インドネシア メナド

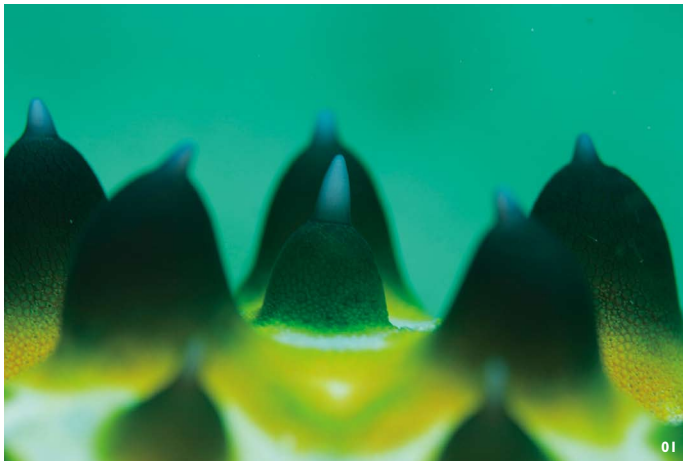
私を水中写真家として育ててくれた海

Republic of Indonesia, Manado

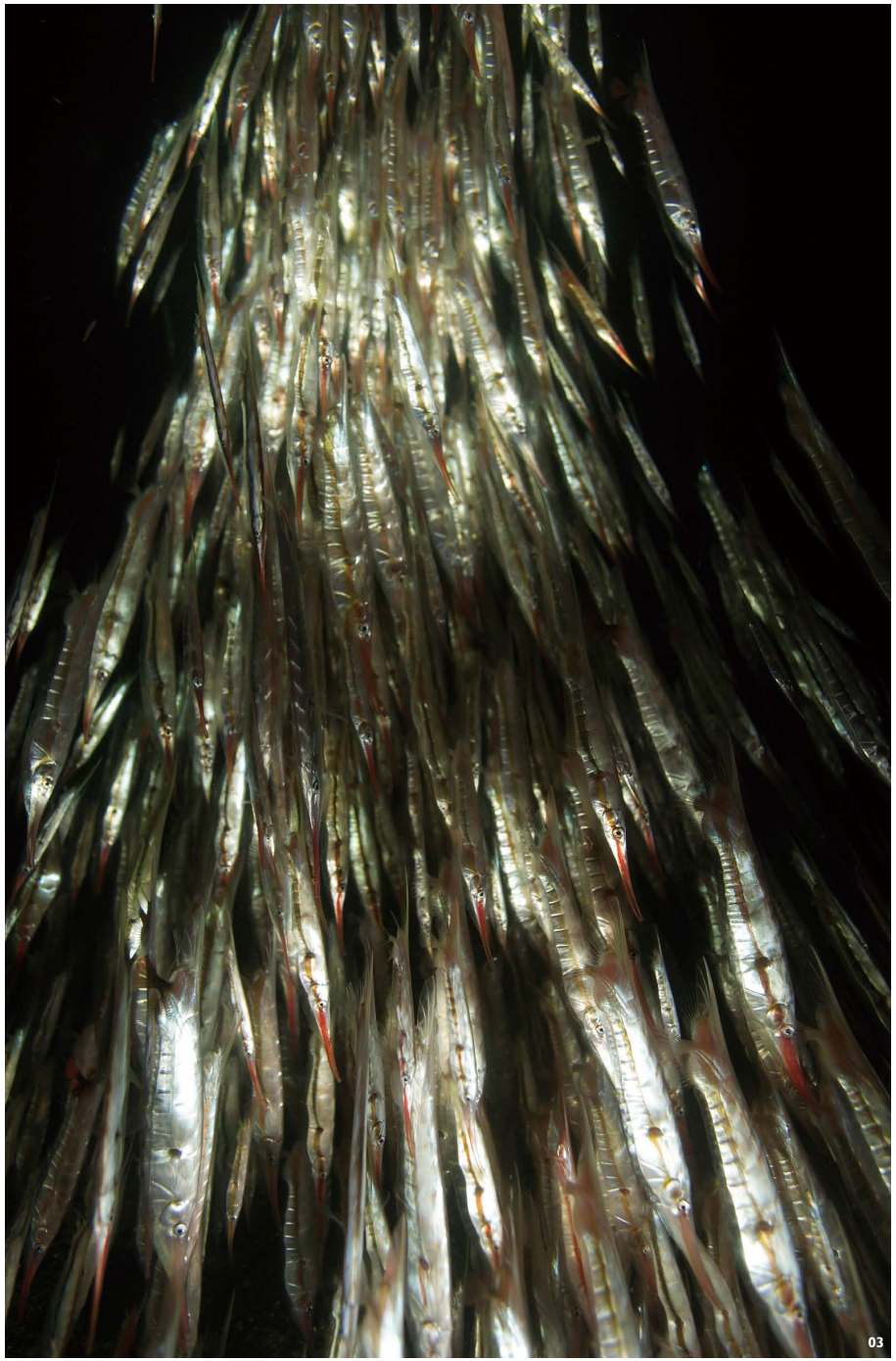
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

井章
鍵靖


01

02


03

海の宇宙を表現できるメナドの海

メナドの海に毎年、通っているが、毎回違った表情を見せてくれる。同じポイントに幾度、潜ってもいつも違う出会いがあり、撮影する好機会に恵まれる。それほど生物層が豊かなのだ。また、エントリーする時間によってもそのポイントの印象をぐんと変えてくれる。ドロップオフのポイントで午前中に潜るのと、夕方に潜るのとでは、リーフを照らす太陽の照射位置が違ったために全く違ったダイビングを楽しめる。リーフが明るい時は、豊かなサンゴ礁が目に優しい。またリーフが陰になっている時は少し深い海の淵を連想させる。掲載したツバメウオの群れの写真は、リーフが陰になっているときに撮影した。こんな撮影の時、「海の宇宙」というフレーズを思い出す。私の大切なテーマのひとつである。他にも「海の宇宙」のモチーフはメナドの海にはたくさん転がっている。ナイトダイビングで遭遇したヘコアユの大群、浅瀬で見つけたヒトデの体表、モヨウフグに瞳など。私は宇宙を想像させてくれる魚たちとの一期一会を楽しんで撮影している。

04

01/ヒトデの体表、爪のあるバケモノのよう
02/モヨウフグの幼魚の眼、サイケなデザインが素敵
03/夜にしか現れないヘコアユのシャインデリア
04/水面下で揺れるツバメウオの幼魚たち

インドネシア メナド

私を水中写真家として育ててくれた海

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

井章
鍵靖

ブナケン島の海底で
巨大なアオウミカメが叫ぶ

インドネシア
メナド

人気ポイント「レクアン1」に住み着く、大きなアオウミガメ

私を水中写真家として育ててくれた海

Republic of Indonesia, Manado

Web-lue 2008. Spring

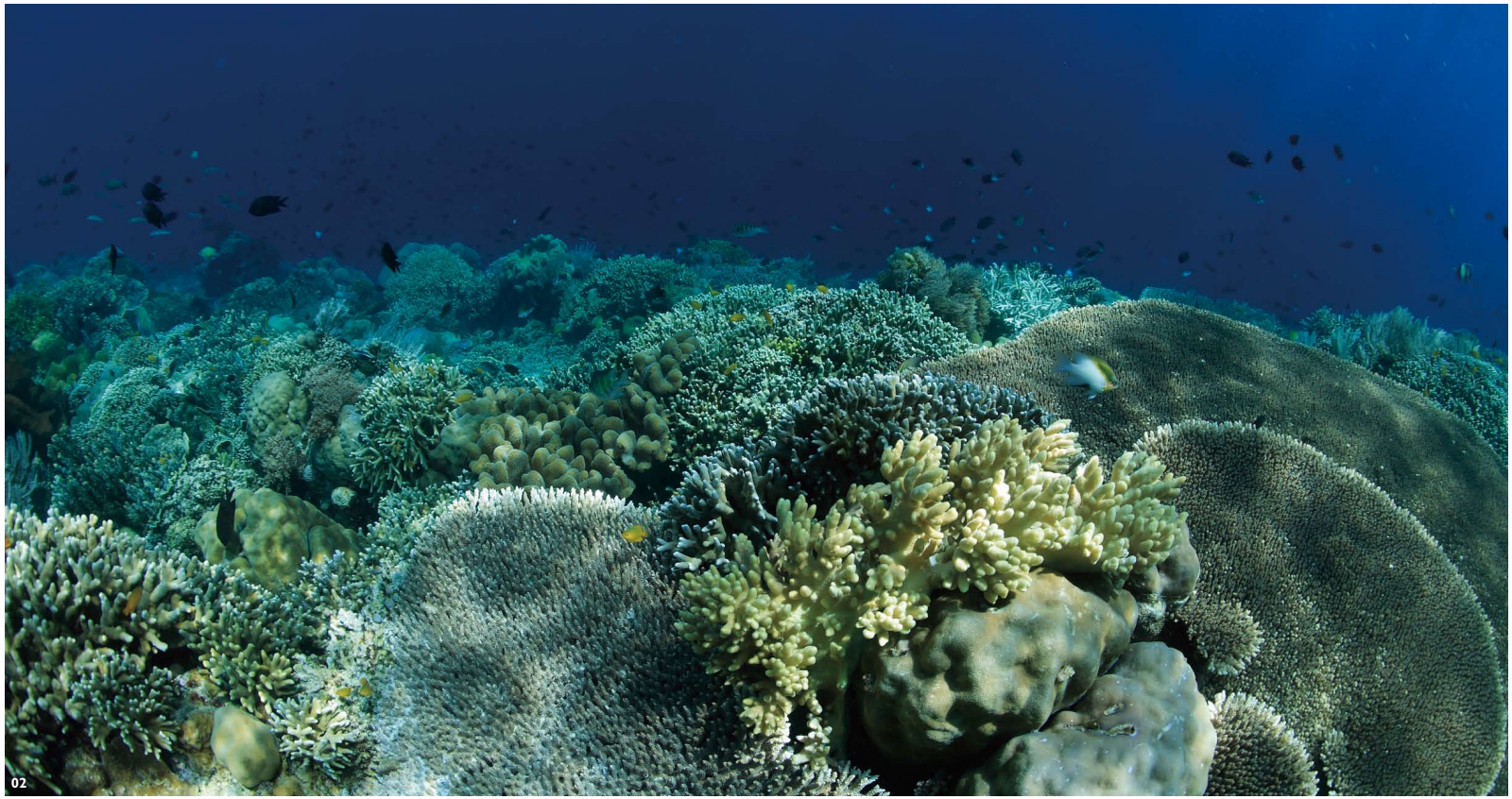
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

インドネシア
メナド

メナドの海なかで、もっともポピュラーなダイビングエリアは国定公園にも指定されているブナケン島を含む4つの島である。眼下に広がる海は青く、透明度もコンスタントに高い。また水温も29度前後と通年安定しているために、薄いウェットスーツで潜ることができる。潮の流れもそれほど強くなることはなく、ビギナーダイバーから、フィッシュウォッチング派、フォト派ダイバーまでじっくりと楽しむことができる。地形は豊かなサンゴ礁や白い砂地、ドロップオフと様々で変化のあるダイビングでも人気が高い。このエリアはメナドの海の中で、もっとも平均的な海で、カメからナポレオン、ロウニンアジなど大型種から体長1cmにも満たないピグミーシーホースやウミウシ、ニシキテグリなどに会える。

そして、特筆すべきは、ダイビングガイドの能力である。彼らは何も変化のない海底から、不思議な生き物をどんどんと紹介してくれる。カメラ派にとっては、撮影に忙しい充実した潜水時間となる。


02

個性を主張する ブナケン島周辺の 生き物たち

01

03

04

01/鮮やかな色のイソギンチャクに棲むカクレクマノミ
02/豊かなサンゴ礁がリーフを覆い尽くすシラデン島のハウスリーフ
03/リーフトップでは、極彩色のキンギョハナダイが群れている
04/夕刻、テリトリー争いをするニキシテグリの雄同士

私を水中写真家として育ててくれた海

Republic of Indonesia, Manado

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link <click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

井章
鍵靖

美術館の海を見つけた！ バンカ島

メナドの海の魅力は、ブナケン島周辺だけではない。正直な話、もし、メナドがブナケン島周辺だけでのダイビングだったならば、私はこの海にこれほど魅了されていなかったと思う。私が通い出した 1998 年頃は、メナドにあるダイビングセンターが新展地を求めて積極的に動き出していた時期で、その時に私もバンカ島やレンベ海峡で潜る機会を得た。

レンベ海況はマクロ派ダイバー垂涎のダイビングエリアとして有名になった。しかし、バンカ島周辺は未だポピュラーではない。実は私が秘密にしておきたいほどお気に入りなのはバンカ島周辺の海である。スラウェシ半島の北端に位置し、メナドの他のエリアとは全く異なる海が広がっている。この海の魅力はなんと言って美しいソフトコーラルだ。特に代表的なポイントである「サハウンI」の水深 15 ～ 20m に鎮座する大きな根の前に立つと、まるで美術館にいるような印象を受ける。私はそこに展示されている色彩豊かなコレクションをひとつひとつ鑑賞し、撮影していく。

01/ウミシダやヤギの隙間で擬態するイカの仲間
02/バラのようなイソギンチャクに付くハゼ
03/カラフルなイソギンチャクが根の表面を覆いつくす
04/ホヤの上を歩くミゾレウミウシ

バンカ島

私を水中写真家として育ててくれた海

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

井章
鍵靖

私はジュゴン。「人魚」です。
現在の住所はインドネシア・バンカ島です。

バンカ島

バンカの海で出会え最大の幸運、ジュゴンがこの海域で食事をしていた

私を水中写真家として育ててくれた海

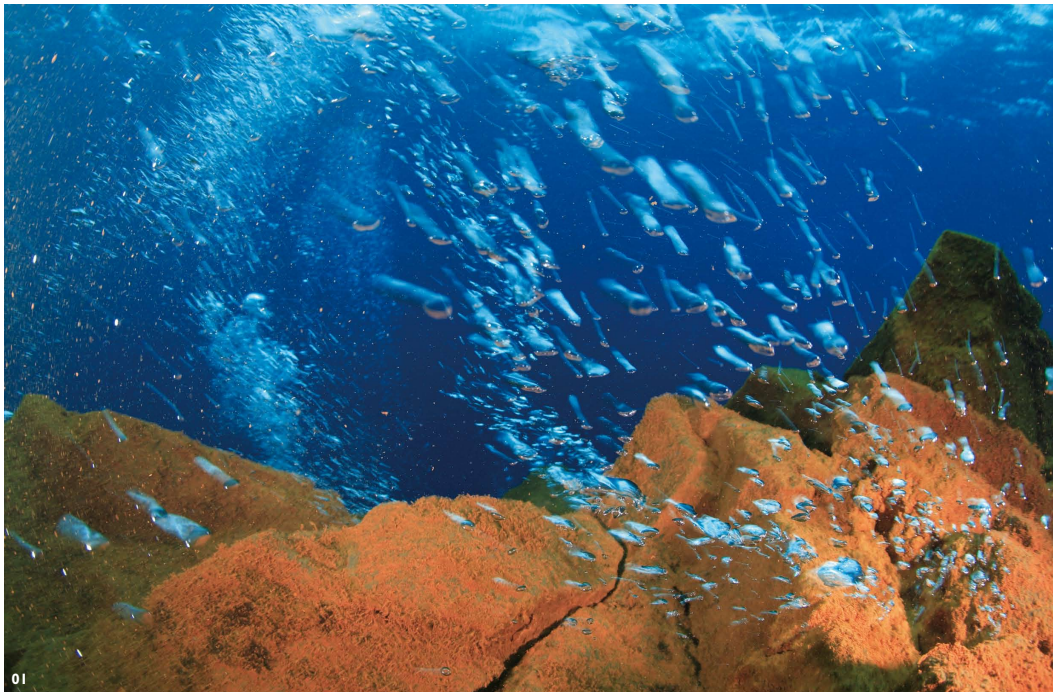
Republic of Indonesia, Manado

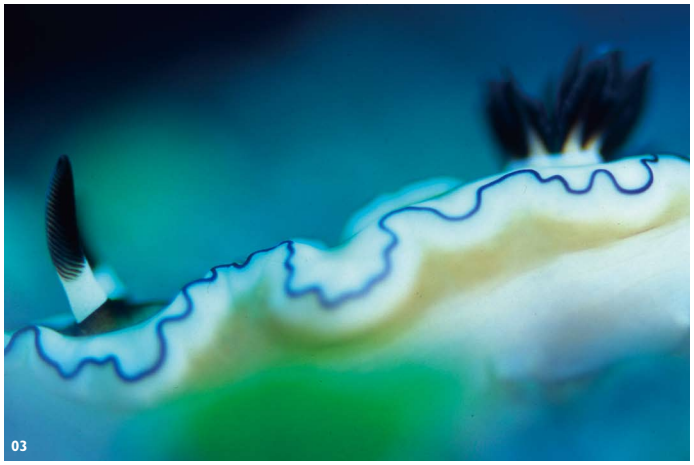
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

井章
鍵靖

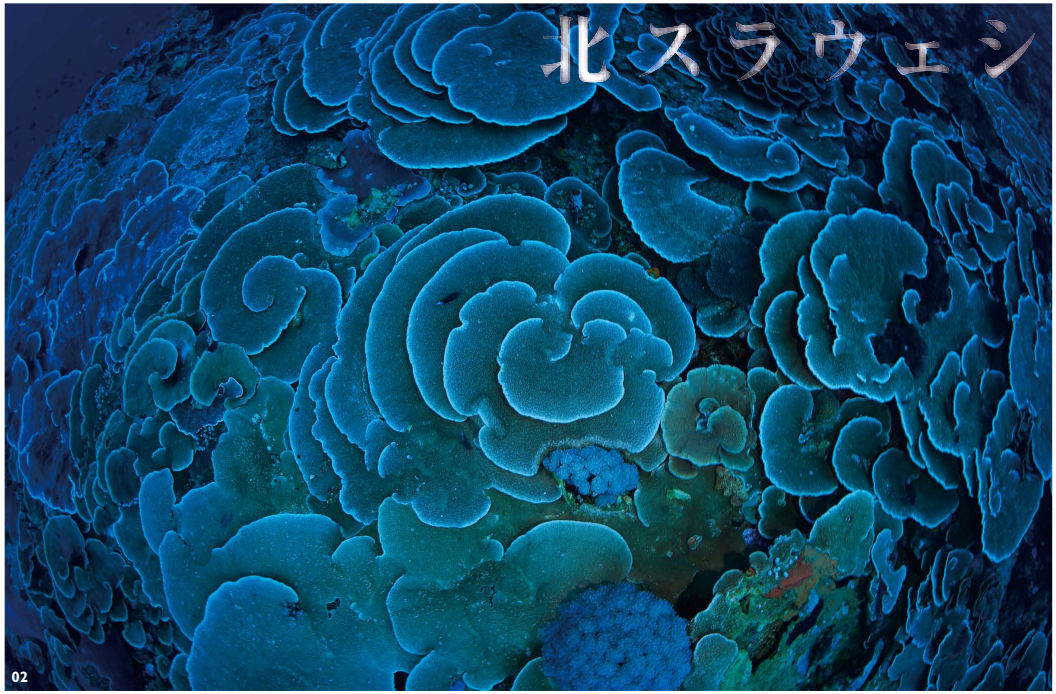
最果ての海底火山ポイントでメナドの原風景に出会う


01


03

04

01/勢い良く噴出す泡、海中の不思議な景色
02/手付かずの美しいサンゴ礁が広がっていた
03/フォトジェニックなキイロウミウシ
04/ジョーフィッシュが睨みを効かした



02

今、最も注目されるメナドのエリアは北スラウェシ。クルーズで北上するその先には未踏の海中風景が待ち受けている。最北端に位置するマハゲタン島の海底火山(Under Water Volcano)は海底からそびえ立つ大きな根から絶えず熱い湯が吹き出している。赤茶色の錆びが覆った表面から、まるで髪の毛のような火山毛と呼ばれるマグマが引伸ばされたものがゆらゆらと揺れている。至る所から無数の泡が吹き出し、沸騰直前の鍋底のよう。泡の出所に手をかざしてみると確かに熱い。地下のマグマの力を感じずにはいられない。ベラ、フエダイ、ハタの仲間がこの周囲でよく見られる。ここは魚たちの治癒場なのかもしれないと考えると撮影も楽しくなった。

火山島が連なる海域を旅するこのクルーズ。その島々は過去に流れ出した溶岩流の跡があり、荒涼とした姿が印象的だ。特にルアン島はそのダイナミックな景観に心奪われる。溶岩が流れ出た近くを潜るということで、無毛の世界が広がっているのだろうと懸念していたが、驚くほどカラフルな海中が待ち受けていた。ウミシダ、カイメン、イソバナなどおよそ考えうるすべての色が、そこに集約されていた。

現在、この北スラウェシクルーズは、豪華クルーズ船・オデッシー1が定期的に就航している。少し遠くて無垢の海に興味があるならば、このエリアを選んで欲しい。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます
Information Link click 関連情報HPへ
http://www.wtp.co.jp/renewal/manado/index.htm

Resort

メナドで人気の
ダイバーのためのリゾート・キマバジョ

01/天蓋付きの部屋
02/レストランからの眺望
03/美味しい食事

キマバジョリゾート&スパトは自然と調和した極上のリゾートでありながら、ダイビングリゾートとしての人気を確立している。ウォーリーベイを望む立地にあり、自然の地形を活用したダイナミックなランドスケープの敷地内には1000本のヤシの木が立ち並ぶ。コテージは茅葺屋根でプライベートを重視したスタイル。室内は、木のぬくもりと柔らかな白で統一され、天蓋付きのベットが用意されている。ビーチ沿いにあるレストランからの眺望も素敵で、日本の富士山を連想させるメナドトァが海上からそそり立っている。レストランのメニューも充実。なかでも日本人オーナーのこだわりで考案した和を感じさせる料理は、人気メニューである。また、海岸線でのBBQやプールサイドでのロマンティクディナーなどもあり、メナドの自然を満喫しながら美味しい料理に舌鼓することができる。

また、メナドで初めて作られた本格的なスパは、ダイビングの後の癒し効果としても人気が高い。

Cruise

メナドの豪華クルーズ
オデッシー1

オデッシー1は、ダイビングを目的として建造された本格的なクルーズ船だ。温かな印象を受ける木製の船体で、各室内にはエアコン、温水シャワー(アメニティー付き)、トイレ、セイフティーボックス、ドライヤーなどが完備され、リゾートのような感覚で滞在することができる。広いダイニング&レストランの多目的エリアも広い空間が確保され、食事、ダイビングの合間もゆったりと過ごすことができる。その他に、DVDプレーヤーやパソコンが常備されているカメラのメンテナンスが行えるデジタルルームなどエアンランク上にクルーズを楽しむための設備が充実している。食事も美味しく、毎ダイビング後の楽しみのひとつとなる。お肉、お魚、麺類や美味しい地元の野菜を用いた料理が毎回用意される。また、マンゴ、オレンジなどのフルーツジュースや炭酸飲料、飲料水やスナックなどは無料(ビール、ワインなどのアルコールは有料・ウィスキー、焼酎などの持ち込み可)。階上には、ルーフのあるサンデッキと星を見上げることのできるスターゲイザーラウンジがある。

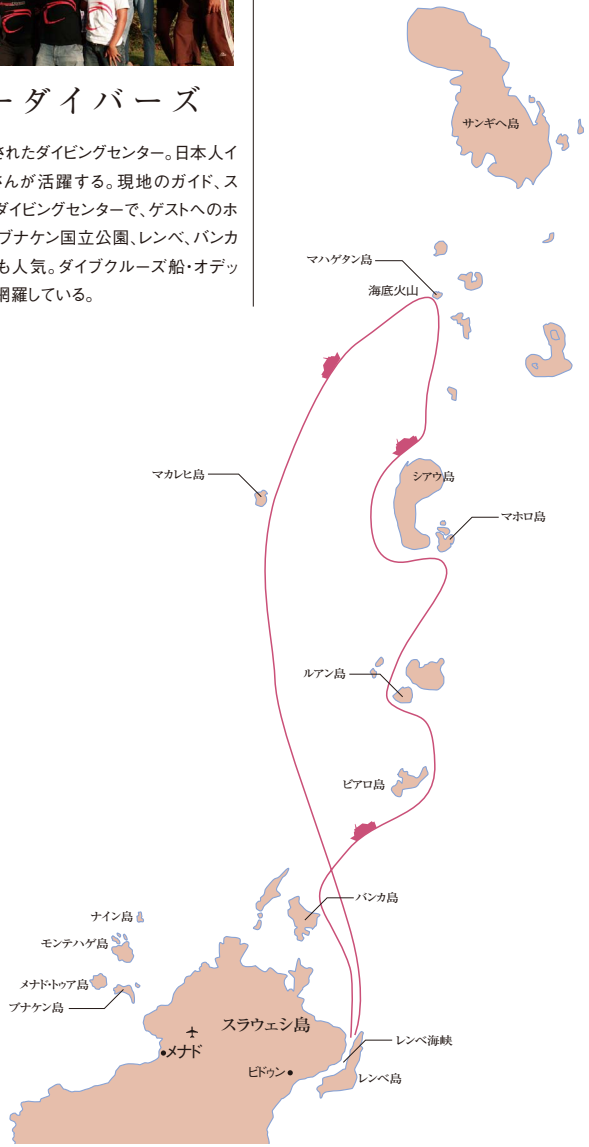
ダイビングは、2隻のゴムボートを使用したスタイルで、6名ほど少人数制。広いダイブデッキは使い勝手が良く、大きなカメラ水槽などもある。毎ダイビング後には乾いたバスタオルやマイボトルのミネラルウォーターが用意されるなど、きめ細かいサービスが嬉しい。ナイトロックも完備されている。

Diving Service

オデッシーダイバーズ

ココティノス内に併設されたダイビングセンター。日本人インストラクターのミキさんが活躍する。現地のガイド、スタッフをたくさん擁したダイビングセンターで、ゲストへのホスピタリィー度も高い。ブナケン国立公園、レンベ、バンカ方面へのデイトリップも人気。ダイブクルーズ船・オデッシー1で、メナド全域を網羅している。

04/オデッシー1の全景
05/自慢の料理はビュッフェ方式
06/広いリビングダイニング
07/元気があって頼もしいダイビングスタッフの方々



©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます